

技術士制度における受験手数料及び登録手数料の見直しについて

- 現在の手数料は約30年前に定められたものであるところ、消費税の増税、原材料やエネルギー価格の高騰や郵便料金の値上げ等による物価、物流費、労働者の賃金や時給単価の上昇による人件費の上昇に対応できておらず、技術士会の試験事務に係る技術士会の収支に影響を及ぼしている状況。
- また、国内外の情勢や技術者に期待される役割の変化を踏まえ、技術士試験受験者及び技術士登録者のニーズを踏まえた利便性の抜本的向上を推進することが求められている。
- ついては、技術士法施行令を改正し、令和8年から受験手数料及び登録手数料を見直したところ。
- 改定手数料の金額については、各項目の内容を精査した結果、以下のとおり。

※なお、若手受験者への配慮のため、技術士一次試験の手数料見直し幅は最低限とする。

①受験者・登録者の利便性向上

1次 : +1,000円
2次 : +1,200円
登録料 : + 800円

技術士試験・登録手続きのオンライン化

- ・受験申込申請から成績通知書発行まで、技術士・技術士補登録申請から登録証発行まで、登録事項変更・再交付申請をそれぞれオンライン化
- ・記述式答案採点のオンライン化（第二次試験（記述式））
- ・受験手数料・登録手数料振込のオンライン化

試験地の増加

- ・受験申込者数が多い県に試験地を設置
- ・受験申込者の利便性のため、地域に第二試験地を設置

②受験者数の増加方策

1次 : +300円
2次 : +100円
登録料 : -

受験者数の増加に資する広報活動の抜本的強化

- ・試験ポスターの作成・郵送
- ・広報動画の作成・公開

③レジリエントな体制確保

1次 : +700円
2次 : +700円
登録料 : +400円

- ・試験関連電子データの維持・管理（セキュリティ対策）
- ・災害への備え（自然災害等への対応に資する予備費）

④実費勘案分（物価上昇への対応）

1次 : -
2次 : +4,400円
登録料 : + 400円

- ・過去数カ年の実績を踏まえた増額

	現状	改定後 (①+②+③+④)
技術士第一次試験	11,000円	13,000円
技術士第二次試験	14,000円	20,500円
登録証訂正及び再交付	6,500円	8,100円
登録手数料	6,500円	8,100円

※四捨五入により、上の表の額と左の内訳の合計とは一致しない場合がある。

➡ 今回の受験手数料及び登録手数料の見直しにより、物価上昇への対応に加え、受験者・登録者に裨益する改革を推進。

※ 今後、以下の項目をはじめとする技術士試験・登録システムのフルデジタル化を検討予定

- ・受験手数料・登録手数料振込のオンライン化
- ・技術士一次試験及び技術士二次試験（選択肢）に関するCBT導入
- ・技術士二次試験（筆記）のオンライン化（試験・採点を含む）
- ・技術士二次試験（口頭）のオンライン化

・マイナンバーシステムへの連携 等

※ CPD(Continuing Professional Development: 継続研さん)の充実、および、IPD(Initial Professional Development: 初期専門能力開発)の導入促進については、技術士制度改革の推進に必要不可欠な要素であることから、手数料の見直しとは別に具体的な検討を進める。